

まちづくりミーティング開催結果概要



開催テーマ 涌丸獅子舞「ささら舞」の保存について

参加者

日時：令和6年3月11日（月）午後6時58分～午後7時53分

場所：涌丸集会所

涌丸獅子舞保存会 9名
桐生市長

傍聴者 1名
報道機関 2名

1 開会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 議題

涌丸獅子舞「ささら舞」の保存について

意見交換のポイント

- 涌丸獅子舞「ささら舞」の今後の方向性について
- 涌丸獅子舞「ささら舞」を保存するため、桐生市と共創したいこと 等

5 閉会



『涌丸獅子舞保存会』の取組・課題について

① 涌丸獅子舞保存会について

涌丸獅子舞保存会とは

廃絶の状態にあった郷土の伝統芸能である「ささら舞」について、NHKの番組企画で舞を再現させたことを契機に復活させようと衆議一決して保存会を結成し、技能の高めと保存維持に努めている。

結成時期

昭和46年

会長

5代目会長 瀬谷 喜久男



② 涌丸獅子舞保存会の取組について(保存会会則より)

目的

会員相互の親睦と祖先伝来の涌丸獅子舞の発表と継承のため結成。
(※涌丸地区に存在する全戸を会員とする。)

事業

- はやし、舞等の練習
- 他市町村文化団体との交流
- その他本会の目的達成及び運営に必要と認めたとこと

③ 「ささら舞」について

市指定重要無形民俗文化財
(平成11年3月30日指定)

涌丸山医光寺境内に建立されている赤城神社の例祭行事の一つとして「獅子舞」が奉納されており、この土地ではこれを「ささら舞」と称している。
江戸期(安永年間)の導入とされており、無病息災、五穀豊穡を祈った舞であり、「ささら」と呼ばれる竹を細く割って束ねた楽器を用いたことから、「ささら舞」と呼ばれている。

④ 課題について

- 保存維持への機運醸成
- 後継者育成(少子高齢化)



()「ささら舞」の映像鑑賞

(市長)
 本日は開催テーマを「涌丸獅子舞『ささら舞』の保存について」とし、皆様のご意見を伺い、共に考え、私たちがどうするべきか話し合いたい。

意見交換のポイント

- 涌丸獅子舞「ささら舞」の今後の方向性について
- 涌丸獅子舞「ささら舞」を保存するため、桐生市と共創したいこと 等

にさせていただいた。
 まずは「涌丸獅子舞保存会の取組や課題について、説明をいただきたい。」



(涌丸獅子舞保存会 瀬谷会長より「涌丸獅子舞保存会の取組・課題」について説明)
※資料参照

コロナの影響による休止



(意見)
舞やお囃子について、完全な継承ができていない状態である。映像や記憶に残っている音から再現するやり方ではなく、実際に施してきたが、コロナ禍で練習もできず、例祭行事としての休止している状況である。



(市長)
浦丸獅子舞保存会の取組や課題について確認させていただいたが、現在の状況について、皆さん一人一人が感じていることを、聞かせていただきたい。



少子化による舞手の不足



(意見)
「さらさら舞」を保存継承しようとするが、集まりがなくなり、舞手が少なくなっている。課題として、お客をもてなし、流の場として住民の交り、それもできなくなっている。規模も縮小傾向になっている。



祭り行事としての衰退



(意見)
先輩方から手伝って、くれないかと声を掛けて、跡を継いだ。そのめて、跡を継いだ。そのの当時は子どもが主の子化で、子どもが大人化であり、現在は大人もいるが、踊れる子どもも減っている。踊れる子どもがいないのが実情である。



(意見)
 コロナ禍の影響で事実上保存会は解散しており、住民もこれで終わりだろうと思っている。これをまた再開するには、住民の理解を得て再スタートすることに必要と思うが、従来どおりの方法では難しいため、地域全体ではなく、少人数でできる人だけで再開する方法しかないと思う。



少人数の有志で再開



(市長)
 現状については、コロナの影響や舞手の不足、お囃子の高齢化等の影響から休止状態となっていることだが、私の思いとしては、今後も保存維持できるよう努めてまいりたいと考えている。

まず、この地域で完結できなければ「ささら舞」ではないという考え方になるのか、もしくは、伝統芸能である「ささら舞」を残すためには、涌丸地区外の例えば黒保根学園の児童・生徒や黒保根地区の皆へ声掛けをして残すのかのいずれかになる。地域の方が守り続けてきた伝統芸能であるため、こだわりや色々な思いはあると思うが、その反面、「まつり番」などの役割が大きな負担となっていたとお話もいただいた。そのため、これまでは地域の祭りの中で行うものであったが、少し範囲を広げ、例えば市が行う文化祭などの行事の中で「ささら舞」を披露するなどして保存できると良いが、地域のためのものであるため、それ以外の目的には実施しないとなってしまうと保存継承は難しくなる。このように、色々な課題があることは承知の上で、何とか前向きに保存継承できる方策がないか話し合いたい。



まつり番の廃止



(意見)
 「ささら舞」については、「まつり番」という役割を輪番制で行っていたが、舞手を集めたり当日の運営も大変だったりと負担が大きく、半々ぐらいいはその役目で追われてしまうほど大変であるが、見学者も少なく皆やる気が薄れてきてしまった。平成30年からは「まつり番」は廃止し、新しい形式で実施していたが、コロナ禍で現在は休止状態となっている。



(意見)
桐生市が主催で場所
は涌丸地区で行う
ということか。舞手
の確保も課題となっ
ているがどのよう
に考えているか。

(市長)
祭りとしては実施
せず、皆さんが指導
者となって継承して
いくなど、今後色々
とやり方を検討して
いければと思う。

また、八木節まつ
りで祇園祭をする際
に子どもたちがお囃
子をする団体の方で、
この「さらさら舞」の
復活にに対し大変興
味を持っていて、お
り、一度見させて
いただくと共に、教
えていただくたいと
いう話も出ています。
このようなことも
受け入れていただけ
るか検討していただ
きたい。



(意見)
舞手の確保は具体
的にどのようなか
を想定しているの
か。

(市長)
舞手についてはま
ずは黒保根学園で募
集し、人数が集まら
なければ桐生地区も
含めて募って集めた
いと考えています。
保存会の皆さんに
は、「さらさら舞」の
伝統の継承のため
に、活動していただ
きたい。



(意見)
今の地域の状態か
らも継承できないと
思うが、自分たちは
何をすれば良いの
か。

(市長)
舞やお囃子につい
ての技術等を継承す
るため、希望者に教
えていただきたいと
考えています。
現在は後継者も望
めないことから、ま
ずは黒保根全域、そ
の後、黒保根以外も
含めて考えていけれ
ばと考えています。



(意見)
希望者へ教えるに
も、実施場所や日時
について調整が必要
である。

(市長)
その点については、
指導者や希望者の都
合を確認しながら調
整していくことにな
る。



(意見)
道具の修理や衣装
のクリーニングや支
度などで費用もかか
る。祭りを実施して
いた時はお客からも
支援をいただいたり、
地区の住民から保存
会費をいただきなが
ら何とか保存してき
てきたが、世帯も減っ
てきているので、ど
ちらにしても地域の
だけでは成り立たな
い。

保存継承に 向けた方策

(意見)
実際、過去に涌丸
地区以外の方も踊っ
た実績もあるので、
外からも受け入れて
いくことは問題ない
と思う。

(市長)
課題は色々あるが、
一つ一つ解決してい
ければ良いと思う。
今日の段階では、
この伝統芸能を後世
に残していくという
方向性を決められれ
ばと考えています。
合意が得られれば、
皆さんと知恵を絞っ
て検討していきたい。



(意見)
今までのように涌
丸地区の住民の協力
は必要となるか。



(市長)
協力は必要ではあ
るが、地域全体での
協力が難しいという
ことであれば有志で
の活動という形にな
ると思う。

(意見)
再開の際は、地区で話し合いを行う必要はあるが、合意は得られると思う。市に協力していただければ、保存に向けて検討するという方向性で良いと思う。



(意見)
今後は指導する側もボランティアというのは中々難しく、有償で指導協力謝礼のように支払うことも必要である。また、転出者の中にも舞手やお囃子ができる方がいると思うので、そのような方を発掘して指導者側に入ってもらえると良い。

(市長)
そのような対応も必要であると思うが、その反面、教えてもらえるというところに喜びを感じ、お金を払ってでも、この伝統ある「ささら舞」を教えてもらいたいというニーズは必ずあると思う。また、活動が円滑に取り組めるよう指導者への謝礼対応などを検討していきたい。



(意見)
従来どおりのやり方では上手く継続していかない。平成30年・令和元年とこれまで「まつり番」を廃止し、新しい形で実施してみたが、結局裏方でも人手が必要となるなどしたため、今後は全く違う方法で考えるしかない。



保存継承に向けた方策



(意見)
舞手とお囃子の両方が成り立たないと完成しないため、いずれも後継者を育成しないといけない。

(市長)
後継者育成のため、一緒に色々な方策を検討していきたい。

(意見)
例祭行事と「ささら舞」の保存については、別のものとして考えないとならない。



(意見)
保存維持にはお金もかかり、現在も市の補助金が3万5千円あるが、衣装のクリーニング代などで消化してしまい、その他にも平均で7万程度かかってしまうため、財源確保も課題となっている。

(市長)
例えばクラウドファンディングにより、「ささら舞」を残したいという方からの寄付などを資金源にすることも考えられるが、地域住民の負担がない形で財源を確保できるよう市としてしっかり取り組んでいきたい。



(市長)
「ささら舞」を地域の誇りとして残していくというのを一緒に考えていくという方向性についてご理解いただきたいと思う。これから取り組んでいく過程では、課題や実施しなければならぬことなどが、出てくると思うが、まずは一歩踏み出していききたい。





(意見)

涌丸地区で「ささら舞」を実施することとは完全になく、市が主体となって実施するということがか。

(市長)

市は主体ではなく、保存会の活動を支援させていたとき、保存継承に向けた方策と一緒に検討したい。

(意見) 「涌丸のささら舞」という名称は残していきたい。

(市長)

市内の他の地域でこれだけの歴史を持つ伝統芸能はないので、ぜひ保存維持し、「涌丸のささら舞」を後世に残していきたい。



保存継承に向けた方策

(意見)

このような問題は他自治体でも起こっているが、目的が同じで近似したまつりをまとめて実施しているものもあるため、そのようなことも一つの選択肢と思う。

(市長)

おっしゃるとおりそのような方策もあるということも含めて検討していきたい。



(意見) 以前は色々な記念行事や伝統芸能発表会、文化祭などで披露をしたことがある。

(市長)

正にまずはそのような文化祭やふれあいフェスティバルなどで披露して活動をスタートできれば、やりがいにつながると思う。



(市長) 地域の祭りとしては中々立ち上がらないということの確認できたため、まずは保存維持を進めていきたい。今回は初めての会議であるため、その確認をさせていただき、具体的な方法や費用などについても一つ一つ精査しながら、今後一緒に検討させていただき、市ができる支援をお示しできればと考えるがいかがか。

(出席者一同)

ぜひお願いしたい。



(市長)

皆様さんのご協力に感謝いたしました。今後とも「ささら舞」の保存継承について一緒に考えていきたいので、よろしくお願いいたします。

